



門ル 3
3765
7

木曾路名所圖會卷之六

慈眼大師堂	新宮鳥居	御宮	拜殿	神樂所	鐘樓	御廐	御飯殿	深砂王宮	見目祠	日光山	目録
龜井水	三佛堂	奥院	護摩堂	鼓樓	御手水屋	石燈	長阪	下素石	黒髮山		
稻荷祠	常行堂	御別所	御唐門	御本地堂	紫羽御鳥居	御番所	石鳥居	神橋	持石觀音寺		
文殊堂	法華堂	相輪檜	御瑞籬	陽明門	經藏	二王御門	五層塔	飯橋	星宮		



33
517

廿日御靈舎
 新宮別所
 阿彌陀堂
 地藏石
 山王祠
 御別所
 二王風雷門
 根幸祠
 世番神堂
 不動石
 御産宮
 三層塔
 本地堂
 新宮大持現
 十八王子
 三尊石
 藥師堂
 不動堂
 正觀音堂
 龍尾社
 子種石
 手掛石
 七花泉
 白山権現
 本社味社
 山王祠
 金剛堂
 毘沙門天
 大黒堂
 行者堂
 三笠赤倉祠
 持燈護摩所
 千手堂
 酒泉池
 外山
 天神祠
 小玉堂
 辨天堂
 縮荷祠
 慈覺堂
 山王祠
 石橋
 熊野杉
 石鳥居
 幸比堂
 三幸杉
 氷岩
 地藏堂
 四本龍寺
 鹿島祠
 護摩所

番神堂
 南谷
 釋迦堂
 池石
 不動堂
 大黒山
 羽黒瀧
 護摩堂
 骨堂
 金剛山
 十八王子
 足痕石
 觀音堂
 別所
 西谷
 愛宕祠
 二本杉
 三笠赤倉祠
 富士見山
 住生院
 石地藏
 素麩瀧
 中禪寺道條
 藥師堂
 鞍掛山
 足尾
 三宮
 善女寺谷
 八幡祠
 常行念佛堂
 寂光神社
 川俣温泉
 阿彌陀堂
 靈庇閣
 平石
 地藏堂
 大日堂
 煩悩山
 馬返
 一宮
 妙道院
 延命地蔵
 求聞持堂
 二子山
 別所
 慈雲寺
 赤柳山
 二宮山
 蓮華石
 裏見瀧
 清瀧権現
 不動堂

本巻六目二

木曾路名所圖會卷六目錄畢

神子石 神子石
 侯地花 侯地花
 立本親吉 立本親吉
 戒檀堂 戒檀堂
 三層塔 三層塔
 藥師堂 藥師堂
 龍燈石 龍燈石
 紅葉浦 紅葉浦
 宇津瀧 宇津瀧
 湯幸道 湯幸道
 湯滝 湯滝
 燒湯 燒湯
 藥師湯 藥師湯

牛石 牛石
 鐘樓 鐘樓
 中禪寺社 中禪寺社
 根辛祠 根辛祠
 護摩所 護摩所
 日輪寺 日輪寺
 依石庵 依石庵
 椰子庵 椰子庵
 葛蒲沼 葛蒲沼
 赤沼 赤沼
 湯守 湯守
 無湯 無湯
 河原湯 河原湯

中禪寺 中禪寺
 不動堂 不動堂
 男體山 男體山
 摩伽羅天 摩伽羅天
 歌乃溪 歌乃溪
 上野島 上野島
 千手濱 千手濱
 大奇岩 大奇岩
 狝子岡 狝子岡
 弓張猶 弓張猶
 御所湯 御所湯
 自在湯 自在湯
 大真子 大真子

湖見祠 湖見祠
 妙見祠 妙見祠
 三社權現 三社權現
 山王祠 山王祠
 梵字石 梵字石
 鳳凰水 鳳凰水
 大鳳尾 大鳳尾
 金腸山 金腸山
 幕張山 幕張山
 滝湯 滝湯
 中湯 中湯
 小真子 小真子

帝釋嶽 帝釋嶽
 三笠山 三笠山
 女峯山 女峯山
 湯殿山 湯殿山
 日光名産 日光名産
 宇都宮通 宇都宮通
 野本 野本
 越谷 越谷
 雀宮 雀宮
 小山判官城 小山判官城
 不動院 不動院
 浅竹川 浅竹川
 堀井 堀井

大王山 大王山
 赤倉山 赤倉山
 太郎嶽 太郎嶽
 華嚴嶽 華嚴嶽
 從日光道法 從日光道法
 德田 德田
 新田 新田
 幸田 幸田
 藥師寺 藥師寺
 安穩寺 安穩寺
 千住大橋 千住大橋
 霞ヶ関 霞ヶ関

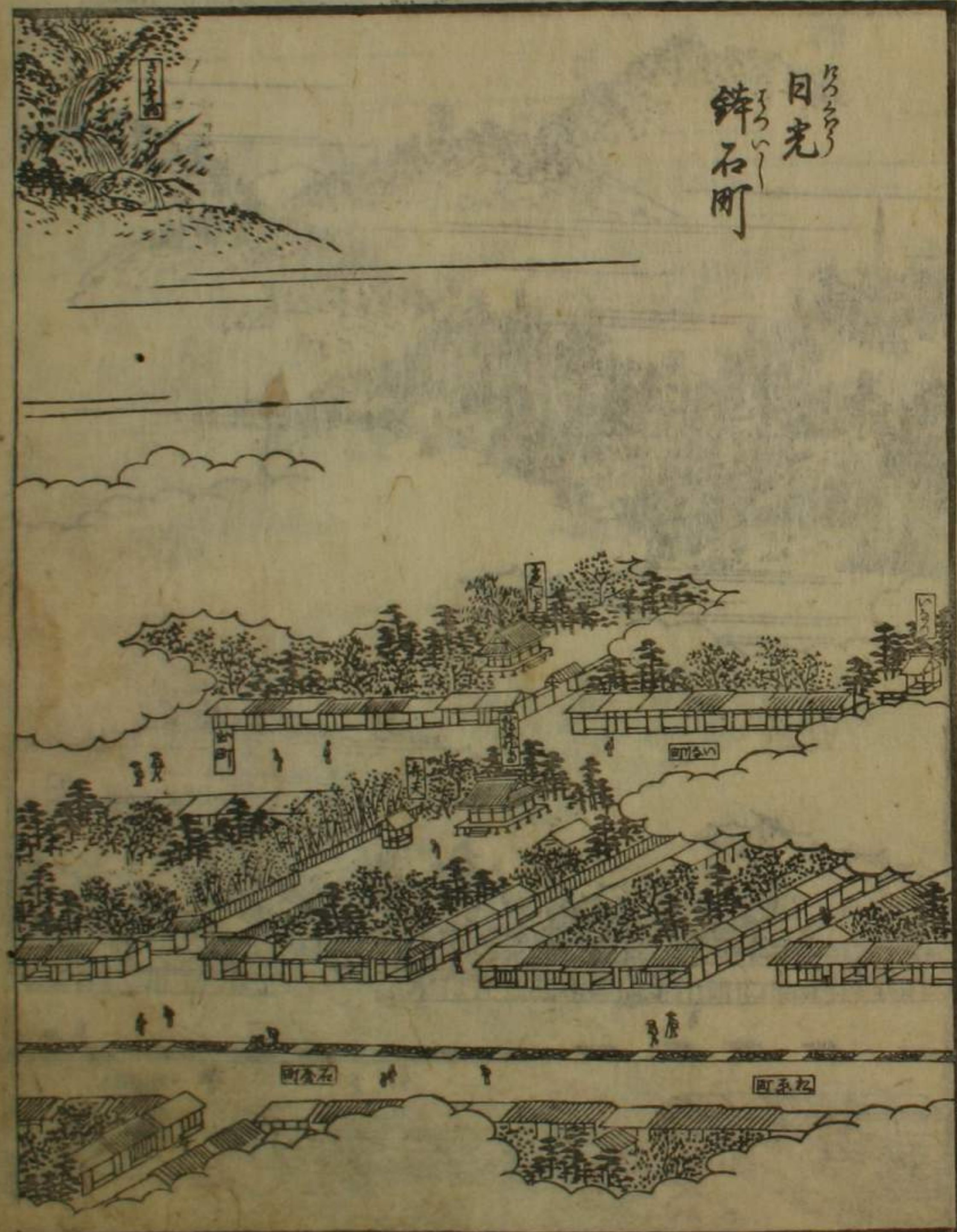
雪嶽山 雪嶽山
 鈴嶽山 鈴嶽山
 月山 月山
 大平山 大平山
 士生通 士生通
 宇都宮 宇都宮
 小都宮 小都宮
 真土山 真土山
 石樹山 石樹山
 真土山 真土山
 金龍山 金龍山
 向岡 向岡

神子石 神子石
 侯地花 侯地花
 立本親吉 立本親吉
 戒檀堂 戒檀堂
 三層塔 三層塔
 藥師堂 藥師堂
 龍燈石 龍燈石
 紅葉浦 紅葉浦
 宇津瀧 宇津瀧
 湯幸道 湯幸道
 湯滝 湯滝
 燒湯 燒湯
 藥師湯 藥師湯

牛石 牛石
 鐘樓 鐘樓
 中禪寺社 中禪寺社
 根辛祠 根辛祠
 護摩所 護摩所
 日輪寺 日輪寺
 依石庵 依石庵
 椰子庵 椰子庵
 葛蒲沼 葛蒲沼
 赤沼 赤沼
 湯守 湯守
 無湯 無湯
 河原湯 河原湯

中禪寺 中禪寺
 不動堂 不動堂
 男體山 男體山
 摩伽羅天 摩伽羅天
 歌乃溪 歌乃溪
 上野島 上野島
 千手濱 千手濱
 大奇岩 大奇岩
 狝子岡 狝子岡
 弓張猶 弓張猶
 御所湯 御所湯
 自在湯 自在湯
 大真子 大真子

湖見祠 湖見祠
 妙見祠 妙見祠
 三社權現 三社權現
 山王祠 山王祠
 梵字石 梵字石
 鳳凰水 鳳凰水
 大鳳尾 大鳳尾
 金腸山 金腸山
 幕張山 幕張山
 滝湯 滝湯
 中湯 中湯
 小真子 小真子



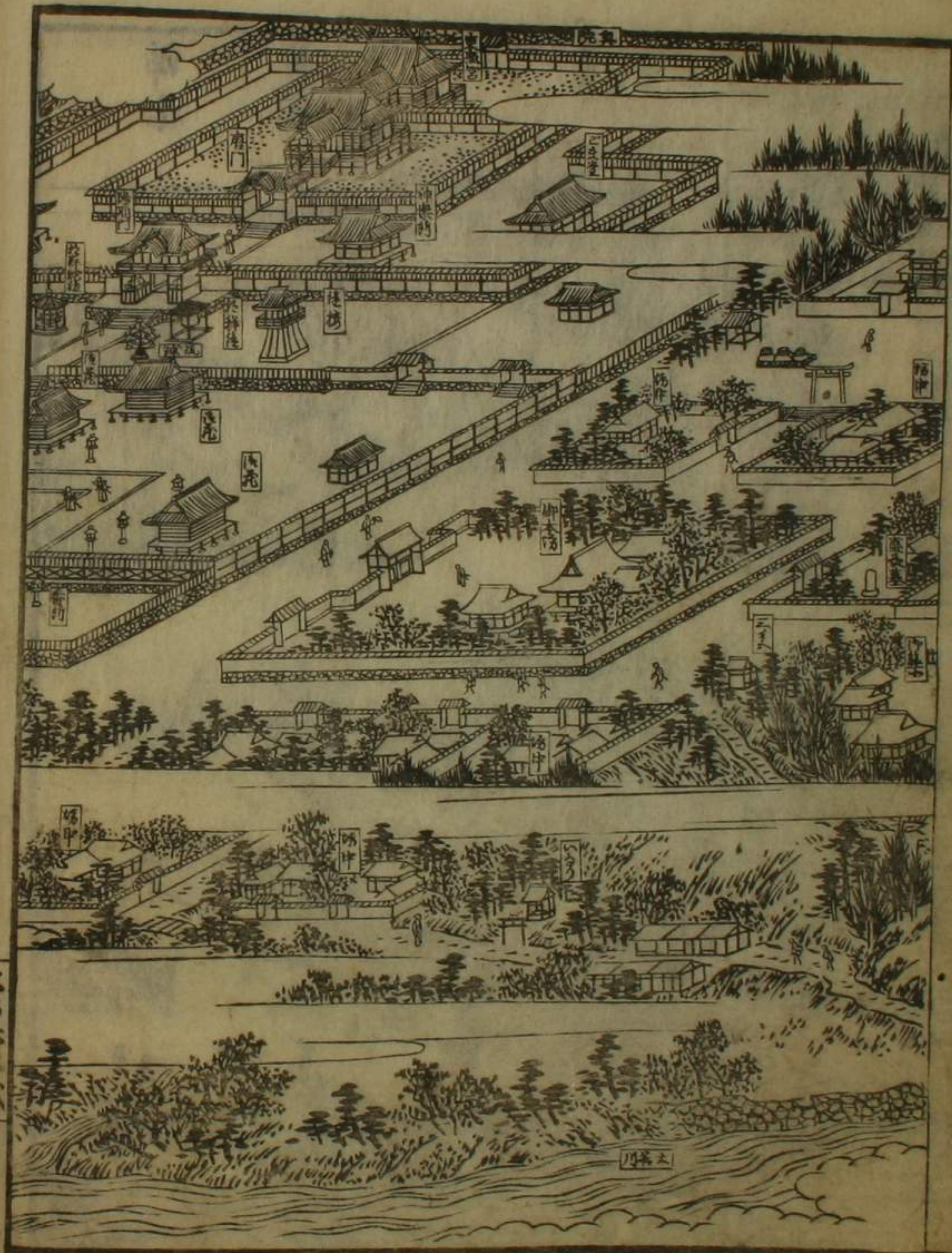
日光
銚石町

日光
銚石町

本巻六目三十一



本巻六ノ末









木曾路名所圖會卷之六

今はむし貝原益軒のあらはれ日光名勝記をのりてまひま小
宿しわすのやちまはまきく徳光長て一所の弘法色て大沃今市を賦
所公所ふつるこれあん日光山のとめて守妙宮より九里共道ぬく
よるゆゆま小高し左右の側と老杉の割樹ありて若暑を避暑小
涼しく御山とまふさずしゆをばるとて麗に佳景の靈場所
柞下聖國都賀郡二荒山と人皇甲八代の帝稱徳天皇の御宇神
護景雲元年勝道と人の開創ありて上人の日空芳賀郡室八幡とて
出従あり父と垂仁帝第九の皇子纏向尊十孫代の孫若田氏高藤
磨とつと母と正二位大夫若田清磨の息女と父母嘗ておはせぬ
幸弘光の御宇出流山千石とす所と積りありて一七の百満とる表
八葉の蓮花手に藤糸はく纏光る玉の中とあるその瓜とくあそと見て
それより好身と有りて月満上人を産む一則夏の昔ふよりて稚名瓜

藤糸丸とあつけゆふ物ふは小児幼妙とる異相ありて佛門の本心
ゆく砂城あり先土をよせと堂舎と營の業弘光のむ好むゆん
生成て出流の親善小糸とて積りの修修の内ふたひく不思後
の所告あり二荒山開創者幸弘光思ひたまはし廿七葉の淨財曰
國業降寺はく割敷しゆひそれより素念成遂んとくけしと起
き幸宮四年龍寺依浄建管南しく厥后中禪寺ありひその
所の靈社をあらせと浄宗創ありて法奉ありて弘法大師登山
しゆひ二荒を日光を改光のひ又慈覺大師も登山しゆひく
所く小堂社坊いともゆふ新く星翁八百餘衆を修くえねわ乃
順慈眼大降中興の開山とて 神威を海内ふ權しゆふる
其靈陽分知けるけあも修しと其あらはると記し侍のそ
黒髪山 日光山の幸
万葉 鳥羽山の星翁の山若ふゆる修りたはくとあひし 漢名をた

新十

新十

日本紀第五云

崇神天皇

之子

豐城入彦

命

夢自登御

諸

山向東而弄槍

八回擊力

於是奏夢事

天皇以豐

城命

治東國

是上毛野

君下毛野

君之始祖也

延喜式云

下野國

河內郡

二荒山

神社名

神

余案二荒

日光音

相近

蓋其是耶

又二荒

和訓與

補陀洛音

相似

由是浮屠

釋書云

勝道姓若

田氏野之

下州芳賀

郡人早山

塵累鑽

仰勝業州

有補陀洛

山峰巒峻

峙振古味

有陟者

道以神護

景雲元年

七月企跋

涉路險雪

深雲霧

晦暝不能

登止山腹

凡經三七

日而還天

應元年

孟夏又興先志亦屈而退延曆之始季春之月發

大誓致勤修且日者回不到山頂亦不至菩提漸

達于頂衆峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境

道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺

又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小

船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰

神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅

任上野講師又與都賀郡創華嚴精舍大同二年

州界大早刺史令道祈雨道上補陀山行法雲甘

雨速降百穀皆登

同書云 圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天

皇第一皇子豐城入彦節察東壤其次子留為鄉

人仁其胤也延曆十三年生焉是日紫雲覆產屋

公貴

日光野

同郡大慈寺僧廣智德行兼優俗号廣智菩薩者也。適見祥雲出尋起所乃檀越壬氏之宅也。其後仁遂就廣智智將仁登庸嶽與傳教教悅納焉。世云圓仁大師登日光山立寺院。

又二荒も書入入口の所成初石より又狛石も書ん今市より二里の間列樹の枝ありと農家ありて狛石の本戸と入系松原町石

下馬の頭系例

瑞雲山龍藏寺あり奉尊觀音を安ん慈覺大師の地あり光り小二十二所の觀音あり辨財天堂惠心の地あり寺下聖坂亦二十二番の札所なり。其所の中程小法寺あり石裂神とあり又狛石の地あり通り筋狛石町と云ふ別より下狛石町を例に横所あり八乙女町と云ふ下狛石の中程なり。

寶珠院寶珠坊とて小寺あり寺内觀音堂あり運慶の地

坂東の札所なり又所の向なり。

狛石山觀音寺あり寺内の山と云ふ小觀音堂あり弘法大師の地

かり上狛石所は本南所の名製塗枿梳打殿曲物をも有る右初光の松系所より南所まで越く十二所あり。

下馬は所左の方本石の馬本瓜登りて森の中

星宮あり奉尊の天童を安ん奉ん殿あり日下續々南山あり

出家入峯の節勅仍の堂あり星の宿と云ふ毎奉極月廿六日を

仍者下着此帷子一ッ條盡一夜と云ふ法勅あり。

豐饒の所藤原をり行法は日所の麓

見同明神と云ふ。

下系石は所を却り此方に足ゆる松の茂りて山原小舎なり

上三丈と尺上の墨石の横より六間二尺五寸兩柱の間中ほど二丈式
尺柱のつらうと尺守ありと一兩柱より後日一所ありとも所あり
長サ四尺七寸横式尺守七分ありとせ清観と 後水尾院宸鏡
左の方

○五層塔に柱ハ酒井横波守清宗附より辛酉東の基所作の法隆
北を新迎南の基變中央大日如來形なり

○御假殿 二柱あり 御宮清造誓の附邊ありとも所は所あり

二六舟中の清成はくまり又若月十廿日八屋上中毎年清湯と指
なる則は舟の釜二つあり

○二王御門 北は舟門 南石馬本兩殿石燈籠兩基と酒井横波守源忠
勝親臣の清宗納まり日づく右の方小

○御番所ありは所ありうす物とれた物をぬぐと垂く清とみづりふ人
入まは旅客とも赤清の早身まより掃帚の社清小次郎なりとる客

けう一ひの金とく社清の泥後のちれを南と清門表小見やう見とく
出入を石燈籠とる二つありとれと表西より物清成の寄進小ありん
あふ二つの名物ありと才一と石馬舟二尺五寸長二尺五寸のたを
せ里人とりる燈の肉ふ壁横三間餘の大石ありとれは門房石瓦圓を
りたつちとるさへ

○二王御門 左右門畔二王長一丈式尺餘裏の方の唐獅子なりは御門
城入と左右は金燈籠石燈籠あり是と諸座ありと清宗納まり右の
方に清宗表二箇所は及水厠あり植一樹あり

○清宗素本造より清神馬ありとる久下厩ありて清宗素本の清宗
は所へあり

○清手水屋は清手水舎は清宗石燈籠とく建て天井の彫物を後小形
龍形の手水石燈籠と肥前佐賀の城皇湯清宗肥前より清宗運送引
清宗納まり春清のき殿とくくもはひは清宗とて清宗

○紫洞御書あり

○經藏傳大士の傍に傳ふ笑佛とて石階を登りて

○鐘樓鼓樓左の方小朝鮮より献上の廻金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の掛鐘あり

日光道場為

大権現設也

大権現有無量功德合有無量崇奉結構之雄也

味曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補靈山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈

肇闡靈真

玄都式廓

寶鐘斯陳

參修勝緣

資薦其福

鯨音獅吼

昏覺魔伏

非器之重

本卷六十二

唯孝之則

龍天是護

鴻祚偕極

○崇禎 朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

○は鐘乃小持ん正月三日所祝式の時とるり同左の方小阿茶院

○の寄進すは地臺あり其制法日本の物みらりあ申はあ又琉球

より献ぐる二十六缸の地臺ありは是諸侯方より所の所地臺

ありとありは所西の方ふ

○御本地堂幸尊藥師如來三列鳳來寺傳の薬師と稱し二菩薩

十二神將を安置んは所堂之伽藍に於て吳乘柱金標卷長押の

地紋を以てすていづも金銀と銘光り備寶殿の天井あり八

間本揚りたる龍の画あり狩野永真安信の手なり

○陽明門 但一武士を以所めて刀とぬきて所門内入

○は所門地を好くも 林裏の陽明門を標を衣ぬ所隨身左

右より極彩色なり裏と風神雷神御門の御額ハ

後陽成院の宸翰あり修小勅額門にも之於ては清門の結構比類なし彫物より琴棋書画あり八周公且獵揚費長房盧敖琴高院籍松普康豊干王子献孔子顔回とあり其外二笑四友六侍九哲も至ふまで悉記をみ字端もと及び根生れと豹虎龍麒麟獅子摸いづれも南本の端小刻ありあり其すにありなる所もたつとるハ鳳凰孔雀其外唐より日本幸れ禽獸とありても之もたつとも極彩なり同様に威令のうかおりたるも携ひ珠小光輝とてあり所をたつとるハ中の通れ天井也然ハ特非探坐守信の望より同乃天井也又女有畫また右の清回廊折廻り百間餘あり殿との樂天友子献此君又文をぬむ梅枝杯ありくわむぐじと清門をたつとる殿上もなる東石を清川より石れくはく左の方あり

○神樂堂毎日八乙女お仕して清神樂所奉養を日所ふるく

○護摩堂奉尊五丈尊明王十二天を安坐は所おあて正五九月十日

一日より十七日まで天下安全の祈禱の護摩と修りせしむ

○御唐門未本造清柱とより龍下り松梅竹の彫物金具禁し向ふ乃破風と件由菓父あり七賢七福神等彫あり天井と又女の彫物なりは清門とゆへ唐本城をのく言修り熱くは所の彫物の至る町寧ろ多記をみ字端もと及び二枚の板と其間も禱ふりのありいづれも細ある所とて彫の本は用ひて修るあり一珠に細工の妙子神に入るるの也清屋柱の上は唐網もく意とあり忠取をとり清門の左や

○御瑞籬は彫物の千草萬花ありを修くの色も本間も遊び鳴る風

○御拜殿鷲は二所あり春宵の男女を修り修り修り

御養唐少の二十六歌仙とわけし清奇と後水尾院宸翰あり繪の土佐左近將監の筆ありは御着座の間と両方とも不異邦の名木香樹を集く造りたる偶は修り入るの修光

さうふ夜神のぼろろ若くたる椒蘭と振らして其葉の敷目社を以て御本
鳥羽毛の敷金玉玉取那入く自然と白く争うに之を死翹人とする此勢あり
御本社 具原氏を以て十一回奉祀すなり長し此の石燈八丈間并見ゆふ
石燈奉祀二回ありたりと云ふ事ありけり

御宮下の美事なる春日幸牙一形り
卯月形御少の清を性昔は清く山二荒中や書一以空海大師宛表
のとい日光と改光のふ子葉未本と云ふり終りてや今清光一天ふ
可奉きて思候八葉よありて臣民安んぬの御務あり程候りてきて後と
は一葉ぬ

あつたうやまふふ葉を日的光也
御幸地と云ふ所御徳光也名の原作相殿と摩多羅神山王持現あり
毎幸卯月長月の御神幸あり卯月也 例幣使と下一形り
宣令は持候又 御名代とて高家方奉勅目下 御祭禮御奉行
諸度方二奉勅高社の所祝式者守る幸ハ幸端小巻ヤ一一心み九

月々 御座主の宮城をト先より一山の傍侶社役の面々給人仕仕
ありて天下安泰此御禱あり

○奥院清幸社の後山より 御寶塔一字雲網をうらうらび小清御殿
の清文庫ありは祈くも貴賤とも小奉詣叶らん

○御宮より下向して二王御門左の通先小
御別所大樂院は祈り毎日 御宮之神供儀備へられ去行り三舞
堂中二丁御馬場先右の方よ

○相輪檜 浴と傳教大師六十四句の御願文を記して敷敷もももを
日平六所より建りてこれ六十餘列安全の御禱のありけり功德無
盡なる所なりと意願大師高小は清建管ゆりしは新小宮へよのり

人輪より下及ん倉敷草本のれ中を佛果成ゆりて六親くお見
法縁の事は現至る無量の罪瓜滅し奉奉承く三惡道の苦瓜
免ん奉文と畏あふらん甚深微妙の功德ありし

○新宮の鳥居 所額正一位勲一等日光大権現と書け 一品宮公寛

法親王の真徳なり

○三井堂 當山一の大伽藍をさしに弥陀佛長九尺寸 千手觀音馬頭

觀音とあり長八尺寸守意堂大階の清作と日光三社大権現の清平地

堂なり又堂内乾の隅本勝道上人の清光あり良れ方に軍茶利明王

の像ありそ修りてを所経りし也

○常行堂 本尊は寶冠の弥陀四菩薩後本摩多羅神と修りけ堂

に頼朝公の所背はね光修りて修りけ修りて修りけ修りて修りけ

○法華堂 本尊普賢菩薩鬼子母神十羅刹女二十番神傳教大階

の清光ありけ堂のけりてと人皇五十三代淳和天皇の清光天皇二年の

建立也堂内本傳教大階清光の法華經一那拍りけりけりけりけり

小道ありと修り二町あり登り

○慈眼大師堂 天海の所願あり寛永二十年十月二日遷化し修り勝道上人

より五十一世の清庵を至り中真の用ひけりて當山法庵ありて修り本易

の基成り修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

今之はは雨大師清一作と修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

たよまの者とは許さるる日所也の方御別所権光院より毎社御膳
孤備

○新宮大権現の八棟造りてあり新殿あり日光大権現を稱しまた
新神と大己貴命を地と千手観音あり社に仁明天皇御宇に
年中意足入降の御創建より九段園中の大社なり東監あり
見しより権現の御利益立敷豊饒福壽長満の御神之神寶本
結く切丸を力世のほをれを刀拍を刀りとも立尺符ありて靈劔りを又
小山新宮と着しなる護甲其外玉簪とて長色燭燭珠とてささるる百目
あり頼朝公の御願書あり奥州奉衡退討のとき持されし其外
竹葉ありて中めを勝道上人は権現の御對面の御夜に御書せ
し上御神祇もは社に御書せし毎歳三月二日を奉りて二月廿八日より
三社の神輿をお殿小飾り供養せし存るは故藝と前日より御書古
其日不まうて衣裳とびり親あり其所地真ありて神書成りて是

なれ神輿と平宮神幸ありて三佛堂のありて延年の壽とあり
幸あり一山の衆法中出動ありて社所物とありて右の方に

- 金剛堂あり ○慈光堂素木造あり幸あり慈光寺降の御書あり
- 二十番社不動寺あり ○御供所あり
- 新宮別所安養院文殊の像千子の像あり常行堂の東方あり
- 新宮末社 ○十八王子 ○鬼沙門 長五尺許 ○山王社
- 阿弥陀堂 慈光寺降 ○三尊石 御書あり千五百行者 ○大黒堂 運慶の
- 十王堂 ○地藏石 右の方尾尾の道より不勤宮より尾尾中より十
- 二町餘あり小坂を登り中行ふ
- 薬師堂は所より靈泉湧出たり神代よりて服法は之は法多し
- 晴るるとよこよとて目院主作とせし
- 行者堂飯のさありにあり幸あり小角よりてお小道を察あり
- 石橋あり 新制の所あり

○山王社 向お造りあり 兼は高尾あり 此社を嘉祥年中 意元大降の
御建置あり

○不動堂 本寺明王二童子共運慶の像あり 此向へは滝尾と云ふ
飛泉あり 石階をせりて中程あり ○三多赤念佛神の石造の祠あり
左の方小 ○坂中石不動あり ○熊野杖とて著供養の場あり
其坂の上 ○淨別所は所して日光貴とて食物供養せむ者あり 其
食物取あり 又強考ふ事とてのるが如く 捨持好の責道具あり 此
くけむり又大種管あり 此所を別所とて 此所へは及ぶ 此中
中とては本あり 此所より見ると 初と奉成とて之の勿論あり
とて 此代系の法度方大の客本へ此之のたれ飯取と奉成
かり 又日光の淨地あり 奉子誓行勅を奉るの程あり 必日光貴
此所へは所ふあり 奉に其のたれ先甚新禱と形とて此所へ
あり 人家の地花素禱を所して 此所へは別所あり 滝乃

向う坂素禱告とあり

- 正観寺 堂本寺長五尺存あり び二十番神例あり
- 持燈護摩所 本寺石像不動あり 此所へは入寺の信徒統行せり 護
摩あり 靈徳あり 此所の別所あり 此所あり
- 石高岳 此石の石高あり 此所へは向あり
- 樓門 表も二王裏も風雷の二神を奉り 弘法大降の淨地あり
て女射中宮とあり 此門とて入る御殿あり
- 御幸社 滝尾大権現祭神 因心姫命 本地と阿弥陀如来と 向お造り
の淨地あり 此所へは五十二代 藤原天皇の御願あり 淨地あり 此
所あり 此所へは此所あり 此所あり 此所あり 此所あり 此所あり
弘法大降の淨地あり 此所へは此所あり 此所あり 此所あり 此所あり
二王其外 奇地あり 此所へは此所あり 此所あり 此所あり 此所あり
此所あり 此所あり 此所あり 此所あり 此所あり 此所あり

○千手堂宝形造奉寺長六尺餘弘法大師の淨地

○奉地堂奉寺阿彌陀觀音勢至の三尊佛惠心傍都淨地及て日本

に三尊の奉寺は日新後の方ふ

○根本祠小祠ありて後より西の方への道なり

○子種石奉寺なる奉ありて此は人びるに新ふとれたるなりて靈應有

とる其より

○酒泉池は池且七尺やとありてひし新より酒涌出るといひ傳へ今ふ

ありて酒の香ある泉口は此の中にて造の社を辨財天とす

○三本杉奉社の後ふありてめぐり小石の垣ありて二社の神本はく日光の三姑

よりありてとつづれも大本ありて此は一株の松と植てあり

○二十番神堂 狭路を繞るに十六社の花經の所とて此はより下向

道のよりなり ○飯盛杖は杖古本ありて杖より下をよりしりあり

とるよりなり ○杉門より一本の杉あり又左の方ふ ○淨神

馬碑と稱する淨經の淨馬の碑ありて長年中濃州淨陣の附は馬

小石の淨掃利ありて此の碑の法を聖書よりてんぐなり ○手無石

は石の昔權現の淨子とてこれを移してより佐左の右の橋ありて向ふの

高は石あり ○外山より鬼門天を移して南山の鬼門小高は守備

ためことより二月三日奉移其其山はこれを ○氷岩を是の月

を水ありとて又はこれの山は ○不動ありて此山はくへま

○七龍あり水源より別は七龍とありて此の山はくへま

○天神社尾下向道右の方山奉ありて石造の社ありて此は寛文元

年二月廿八日菅原之島居氏は眼信出流業を宰府の靈廟とて

小壇としてありて猶経て延宝七年六月廿日は齋藤信祐の社頭

を造りて神威を多く靈驗ありて流業に著しとてなり ○十王堂

地藏堂宝形造りて佛堂とて奉ありて奉ありて奉ありて運慶の作

たりとてび勝通上人の淨地は十童子達の教を奉り上人を地藏

鹿嶋の再建かまばしつ所小三郎が好い宗山堂ともいふ
上人の廟所子あ人の墓あり上人の淨骨と中禪と上野爲小納ま
まろ

○津産宮 向物ほううま社の幸地普賢菩薩うけ所とて妊身の女
を祀るを安産と日所のいれ也

○白山持現幸地十一面觀世音ねに終り坊舎の茶店通て中支也

○小玉堂 鳥井お殿あり尚社と早の化神とけ神の所幸神祇
を祀るあり終りま所はせ終る幸宮の境内入石橋と渡
て幸本造の堂あり

○四本龍寺 室莊造幸宮の千子觀音うけ所と五文の勝道上人安産
を尚山室禪の時上人とて住居し終る意疎かり

○三層塔 幸宮釋迦文殊普賢を安ん

五二八

大内三年勝道上人は所小動傳し終る尚社と宇勢文と一軒とて
又宇都宮の社傳と大已貴命やらの尚社神と専武運長久ら
第の淨護神あり神威いらる下野の人社あり神靈と神明の
淨化の十一面觀音中将姫蓮の系に織る佛馬の切枝彌彌珠其
外おくこれあり末社あり○辨天堂 并十五童子○鹿嶋社
○幸地堂馬頭觀音○山王社○稻荷社○採燈護摩所石像
不動大日菩薩と安ん○鳥居ありて○三十番神堂と終り
○別所は不も日光責の道具次け至ると別所の内柱ふけけ一面と
十一面觀音表とて觀音れ終るあり懸下ていまの別所もと長原
の間とらまゝ秘意の遺應淨りの間あり其わらこれ柱みか佛神表
て建定ると故小様石像の若入る幸付とて不思議うらまゝ一は別不
のゑは方森の内小

○三宮 幸地普賢菩薩
○一宮 慈野持現
幸地文殊菩薩
はま社の所禰所也

上小立子佐中より神橋の中に入りて西谷の坊舎より西谷の
通より大谷川の川端を通り又これ終りし所の方指高川をわたり七
町やろく天台律院あり眞雲院と錦山御座主法建より
幸堂希小三社持現社経極法門等建を信夾法建より雲雲法海
寺の佛界より清寂と戒光殿一法法親王の法よりなり

○南谷 西谷 吾女寺谷何事も神橋より西より西谷よりなり
町より四町所 原町 小袋町 幸町 上中下大工町 上中下
板松町 蓮花石所 け町の手前小田母沢よりなり高橋あり

○妙通院 原所の端よりけ寺一山の菩提所寺小○釋迦堂か
言存像の釋迦佛文殊菩薩と恵公の像より希よ慈眼大降の御光有
け寺より希よ希と佛と佛の堂よりあり○愛宕持現寺秋去日の
佛よりけ西谷より町頭小○八幡社尚所の持守よりなりけ小
○六地藏堂ありけ寺のより西谷通より寂光寺へけ返りし神橋より

神光寺より二十町餘ありけ道入りの所

○近念地持堂よりけ七八町よりあり○池石石の上よりありなるあり
け小町より又俗の云ありけありけ一生活とせりけ馬は石の中より
け一馬の跡の痕ありけをけより六町よりけ一病免の地小あり

○二本松尚一の太極よりけ牛沢法住よりけ道法換りけ二の本あり

○常の念佛堂幸よりけ法院二寺佛惠公の法住よりけ一願阿法院を
安んばきよりけ釘念佛の札ありけ又細々とけけありけありけありけ
常任不忘の念佛札ありけ堂内よりけ釘念佛の法障覚源上人の所ありけ
上人嫡王よりけ持本よりけ法源の印文ありけありけありけありけありけ
書の南よりけ高きありけありけ

○求聞持堂幸よりけ虚空蔵菩薩慈光の所作よりけあり



一品准后法親王の真翰よりして多居次へて向うの方へ○二十番神堂又
 かし登りて○不動堂○二重赤倉のむ社あり又かしのけりて
 ○海殿あり
 ○御本社寂光大権現を神下照姫命奉祀と辨財天女より商社を
 弘仁十一年弘法大師の宗奉けり付室廿二の多箱白身鏡その外
 あまごけり右の方へ流りてその源遠ありて梢をけり辨財天女
 尊の帝成賜とて如く流の南小出ると山傍の岩窟左のむこりて
 石工穴建の梵字が四字空海とて金砂のけり地よりよふ○二子山
 ○大尾山は奥へ入る○富士見山ありけり富士より富士のむ根より
 かなはれば
 ○川俣の温泉をわく女人入湯きりり御幸けりり下りて
 ○別所あり寺内小辨財天十五寺ありて寺の長の方へ
 ○羽黒滝とてりり見ゆる原所より中町大工所を通り森の中へ

○ 住持院は寺の二山の暮末より橋門の敷と弘法は座の寺ありて妙元

門ありは寺の名物と日所よ

○ 阿弥陀堂幸き法苑二の佛去日の地之寺あり大台川の橋成りしは

向阿宗とて少一阿あり

○ 慈雲寺神橋より道十二所あり幸きと慈光大師へ又涅槃の釈迦

あり寺の石大台川より石橋よりりりて光のよ

○ 護摩堂ありは所合満が剛より白の岩れ人母不動の石佛剛成隊んを

之て此表の剛の石不憾輪の梵字ありそれよりりて左の切と山岩よ

○ 石像の地苑其教とて又茶の川端よ

○ 靈庇閣は閣より照光施を幸真月廬山の五老峯青天階の物と金葉

葉ともひはと風色より揚園忠が沈香本成をりて閣よ一推成

揮よ射香乳香と土和と泥よ一四登小佛よ四香園ともひは

登よ一志向の島よ一赤柳よ一又宮の要よ

○ 骨堂大苑あり光切切丸と法人の骨を虎むそのよ不羅よ子此折せ丸

碑あり佛小石像の地苑より座像六尺許はより石不剛あり慈雲寺

の門とへよりけりて三前行よけ寺北境内より三前拜の回河申也

又河岸也を青ん焼石あり茶の寺あり切光の佛とて極不梵字の名号

おまると成末えく竹香とる幸より又川雁頂ともりは所と園系乃

高世とて雲よ紀の鳥野の急務もと方中よ一凡重布よりひよを

奥よ一素麴庵あり一平石とて十五巻巻の石ありとてより屏風

に右の方けりて高れの中

○ 二宮山薬師如來金剛堂子の堂も有り日下は法れよ

○ 金剛山はよ不化樞の宿とて入峯山伏の宿あり秘基勅切の道場あり

は地へ人考よひは法れありとよ色ゆん一松立よりて種を入峯

勅切の所より熱とては色よ見よ一山嶽よみよ雲神の立せあり所

かり集まるとる一色記あり

○中禪寺の道徳神格より中禪寺にて二里を所より同母河の橋とて

て川向ひ々○蓮華石前坂を登つて○地藏堂あり所の中禪寺

○蓮華石よりありは石をむく勝道上人中禪寺之通りせ給ふ時組ひ

の結守りりこれより二町餘ゆれ右の町より久三長村よりありこの

村を社名町よりは所不○業降堂幸る業降堂春日月光十三神

將十王尊衣波安形又神明宮在蓮華石前より二町をりり

左の森よ○大日堂幸る石像の大日尊千舞佛派安曇日而よ

地藏堂ありは所の地石像の像よ似り乾子頭坂向水落りて平村

縁よむ出園の地を偶は地よまよ六能降降とて風光つらるる又

大日堂の別と道より右の方道の程二十町許ゆは

裏見龍

北條町山家堂のく流あり岩洞の頭より流流して百尺ふせ

岩潭ふ流り岩窟ふ身とむとあへく流の裏よりんまはうん

流と十はふはる

鴉付を流ふ流るや菱巻初先

は瀑布泉高と十四五間許幅二間餘岩窟の間より流流一向

の万(走)幸猛獸の勢ひ小似り傍より巻くたふ流はて道

たれまのけし物る岩窟の幸あつるは飛泉流うしを身るあつる

名くはよは荒沢不動のまよ流小丸天り小飛泉多し中いどもうら

より見る流とあふ流るる花希文う庵山の流の清小自虹洞中下て

飲寒劍天小倚くまはあつりの幸形ふ

又は側よ小飛泉ニツあり砂子沢橋をりて向つよ○産れ子は足痕

ある石あり左の町よ○鞍懸山○煩悩山あり砂子沢よりり

○鳥井原地藏堂ありそれるを信流村あり

○清瀧寺山嶽を勝福中より幸る子安地藏をりて聖徳太子不動



高尾山に寺あり妙道院の本寺なり極小妙道院の住職は寺にあり

○ 然幸ありあり寺あり

○ 清浄持現は神を天皇社宮の居る小令毘羅神也崇め佛法擁護

の所神あり正月三日の同徳庫執りありは宮のうゝ為岩扉風成

まゝなるふれりあり小飛泉あり ○ 清浄なる寺あり民村六所程

あり

○ 親善堂あり本尊は太子親善音なり勝道上人中程のま本親善の

うら本宗をのりて彫琢し給ふ長七尺許なり中禪寺の女結界なり

は前丁末之をま女も度く結界ありせりて坂東十八番巡礼の札

所なり左のこの通へ ○ 足尾村にありて洞山あり所へゆく道にこれあり

五里程あり足尾坂通を上列へを切りぬり梅親善堂なり右のこの通

三河なりゆき水沢村に往きぬり坂を登りて石社あり ○ 牛王坂

とらふそねり寺なりなり

○ 馬返まはせり半馬返へはゆきまゝなり又女もこ終りを強買なり

これ半を日老を二里ありて小深あり某橋あり河平の石段あり

毛叢石ありて歩ぐ一歩に終りて深川の堂あり又坂は平地あり

有る程より上踏踏としてたききりて檢難あり登りて大平にま

所なり

○ 不動雲石馬返なりをたのふ険路これより山腰あり八所

ほざりて湯水あり

○ 神子石大庵より所よりありてありゆき

○ 牛石よりあり半の程ありは深藤曼りては多なりなりこれなり

を所程あり ○ 折所門は所より下を歩くありて是所の寺竹

ありて又是所ありて終りあり

補陀岩山中禪寺 三里外

別所臨人なりて臨難なりては所を寺絶の出難ありて最なり

崔宮



多雲峯より奥へ天迎りて星河堂後して温の雲居して風環
 雲よへく環布と春山の積木作りて竹ありけりあまの
 とおろて此境ふふふと深く

○湖水長サ二里幅二里ありひを二里半の所もあり口面不築樹修竹
 ありて湖上深處よととも共ありて水も深し水も深し水も深し

○陸橋 ○不動堂本寺五丈高五 ○妙見祠 又夫玉のまへも
 あり本地龍樹堂の麓あり ○立本親善堂本寺千手親善堂長一丈

六尺ありびに天王の像あり因基勝道上人立本と其佳是て彫刻し
 たりと云ふ像坂東十八表巡禮所あり 樹人無性公親心別所の凡地寺

例多し中像あり五丈高の像弘法大師の神也又勝道上人の像あり

○御本社 爲殿あり 尚社大権現と日光三社の本社母と奉地を跡院
千子馬頭延曆年中の清造とあり 神室を獲悉地純一卷金字
の法華經一都八葉淺一面水牛の秀燈 龍牙比單葉一管海竜王乃
赤衣一領 若無畏三藏の菩提子比珠教勝道上人清施生の三光天
降る方陽社其外あり 每歲正月四日夜射祭とあり 社司登山
して上別赤城の方小ひうく 紫紙とあり 赤城と當社の神歌あり
やうよけ 若赤城の神の鹿也の産子ともけ日まぬと此解りといふ
祝詞 一くかの矢と抜ととまこれやうく 赤城の産子けいんおれん
かとのふ奉社ののびり此方に男體のふ登ふ道ありけし 碑あり 姓若
弘法大師 神院修山の記これあり 中古没亡にまうを 准二后公 辨法
親王再興一なりて

○男體山 又黒髮山ともいふ 山に登ふ道 藪々やうて 積雪多く 寒
風肌ぬ 徹ふ ○三社 梓屋山 頂ふ立せ 終ふ 四十八日の 乃ち 毎奉七

月七日は 峯に 登りけし 時七月朔日より 中禪寺別あり 昔より 一七日が ありて
持くの けりありて 登山 一三社 依れり とも 信心 厚なり 奇異の 雲霧を
降る 形あり 男體山 道武三所 中なり 依
○戒壇堂 奉るの 釈迦文殊普賢あり けし 所ふ 三國の 土気 細く やう奉法
のびり 此方
○根本社 ○摩伽羅天 ○山王社
○三層塔 奉る 五智如来 ○採燈護摩前
湖水の けりありて 遠く 見たり 谷
○秋の 候これ けり 神軍に 討勝なり けし 所ふ 凱陣あり けし 法軍に
神達あり 雲霧 紫雲 湖の けりあり けし 所ふ 名付あり けし 奉るの 若禪天 奉
弥勒菩薩 金剛童子 あり 又 依の 入峯 山伏の 病あり 每奉三月
十三日 入峯 一四月 廿日 小出峯に けし 所ふ 花竹 奉る 奉る 奉る 奉る
難り ありて 向ふの 峯あり 見ゆあり

○寺が壽 兼作堂 ○日輪寺 五丈高きび小勝道上人の所あり

○上聖修 胸中にあつて一剛作の修りたる勝道の流骨は修し終り

○梵字石 ○龍燈石 ○懐石

○千手溪 観音堂ありび小勝修あり 卒き千手観音勝その所地

かり毎年六月初日より七月まで道俗一七日の修りたる修定とく

私に承て修々の修縁修光なる信を堅固ありて修され其身の修

修とあるは時を右の別ありて一夜修りたる修に承て修りたる修

修六修修りたる修は修の風景いん方あり風景の修地は修地あり

○風風水 ○紅葉浦 ○西の修 ○大寄 ○大屍

○宇津瀧 ○高瀬泊 ○柳子ヶ淵 ○金が勝 其外名無き

○湯幸の道と別所の修は通て修地一里ほどりて高瀬泊ありて

修ありたる修り

○赤沼原 修地ありて一里方二里ありて一里

ありたる修り

○弓張橋 ○幕張山ありてありて原に修一表ありて常小

下りありて日光持現の神ありて使令とく一修毎小修りたる修

その修修りたる修は修りたる修の修りたる修りたる修りたる修

修りたる修の修りたる修は修りたる修の修りたる修りたる修

修りたる修の修りたる修は修りたる修の修りたる修りたる修

交へて盛修りたる修は修りたる修の修りたる修りたる修

○湯元とくありてこれ修修見と其修りたる修りたる修

○湯元とく湯守八修あり三月中旬より九月十月の頃まであり

○店修舎ありて修幸自由あり

○御新湯 入りたる修りたる修は修りたる修の修りたる修

○自左湯 ○中湯 ○兼作湯 ○河原湯

○修りたる修八修湯十一あり

藥師寺



け陽の功徳の諸病やう一但一りさの陽も積氣と美種と忌かり
陽壺とくぐり青巖ありて入陽の李半毎本群をかせり又け色の

山の名と

- 大真子
- 小真子
- 大玉山
- 雪山
- 赤倉山
- 鈴嶽
- 太郎嶽
- 月山
- 温泉嶽
- 白根山
- 帝釋嶽
- 三笠山
- 女峯山
- 湯殿山

男體山のゆれと後より出羽の湯殿山を掃せり移り夏陽殿の
城勅とけ所へ事なり裏見龍の道より城通とゆべ

善哉龍と稱せ中孫の帰路より大尾神子石の所より又六町ゆべ
け陽の湖水の流よりけ色の天龍泉にして樹林繁茂く中より流る
敷百の布状とくぐり其尺丈をばぬる者冷くして寒くふ
李白の言小龍流直下三千尺疑是銀河落九天と作るるハる飛

泉母と比せんや其流壺を懸るる小目るめれ再ひ日る事能はけ
やうの奇樹靈料多くて花もくく咲く美葉かりけ所より

○大平不動堂のトハゆべ

右の條く日光山中の畫境梵宮成なりを持神してめられおろく五
六日も停るもせられ委くいれ一社一續古事談云下野園二荒山の
嶺本湖水あり度三千町をり流るる幸敷ひあり樹林は方おめぐる
せりども本葉一ツあり深き又魚をたり若く魚成致して別居ふ歩
まきゆると我二荒の権現山嶺ふすはゆべ

○日光名物名製表

慈悲心鳥 慈悲心とくく鳥 即雀よりあり大あり尾長く足直
形もよく又二光あり尾長く是れ狐足事なる者月日星く
とくく尾長鳥とく遠里又けらとくく鳥あり鳩のちれさありいんこふ
ゆべ本名物名製表



駒多 鶴 山多 雄 粟 龍 日 魚 母 山 登 川
魚 鱗 又 州 本 日 光 蘭 日 光 生 菅 百 合 手 竹 石 南 花
白 根 菱 白 根 人 冬 菱 蓮 日 光 菘 千 子 厚 皮 岩 松 苦 枳
石 斛 岩 草 寸 草 推 草 菓 蒨 山 榴 活 山 椒 皮 川 海 苔
あ け 心 桐 鬼 の 子 赤 芍 薬
名 製 表 の 表 也

日光驛 日ぬくの 曲物 挽物 指物 簀笥 日光漬 其外也
○日光神橋より諸方へ通法
御宮、七町 龍尾、十八町半 清瀬、一里
御霊屋、十二町 寂光、一里 裏見滝、一里半
新宮、十町 倉満、十三町 中禅寺、三里
霧降滝、一里半 妙法比売、十三町半 湯取山、三里半
中津湯元、六里 川俣湯元、八里半

本居氏の世

足尾、六里 上列妙義山 伊香保 椿名山 入り小巻

は足尾の方へ引く 妙義山中で廿七里餘

○日光より江戸、如る道二筋あり 壬生通を今市より板橋まで 武里
板橋より麻沼(武里二十町)麻沼より赤坂原、三里赤坂原より壬生、
三里十八町 壬生より飯塚、三里赤坂原より小山、三里半

○宇治交通を日光河原より今市まで 武里

け同様の列樹多く、け所く小民家あり

○今市より大沢まで 二里
けあひごふたの方へ引く 赤坂原より今市まで 三里半
雪のり日光少く、け二里に七つの里あり 岩木村小尾掛あり

○大沢より徳沼まで 武里半
赤坂原の列樹多し、右のこたかたは岩あり 甚見幸なる小舟り
大谷親より今市絶系引ひき、け一里

栗橋 關隘



○徳川即ち江戸都宮まで貳里半

此街乃竹本不自由なる少人宿々の民衆に成のるれ家多し地亦
 と致く疲る其所の之れ切かよりあつてく風守にせられど客全き
 みふ成あり初く江戸都宮より栗橋まで古より日光より江戸まで
 へと切かへりてこれより江戸までふあり江戸までより山道く見せり

より江戸まで約七里十六所あり江戸より此所まで奥の街及び
 少人馬の付来去げく取自由なり合年々も東海道路共ありけ
 とも多し江戸都宮の味下廣く所長く徳川人より江戸の都
 會なりて是れ是より江戸街道小別樹の枝多し九貳里許あり

○荳宮より石橋まで一里半五所

此間も別樹の枝多し民衆所々あり

○石橋より小金井まで一里半

石橋より琵琶半までより小笠原寺とて小笠寺あり即其所成薬

昨寺村といひしは下野の薬師寺とて大寺なりしは一廢帝
字五年初に戒壇法華寺を觀望するに建されし幸元亨親
書ふ見くは凡天下に戒壇ありし寺南都の東大寺流石の觀
世音寺下野の薬師寺は三箇所の有るに外ふ建ふ事瓜ゆる
されど利通院も林徳天皇崩御の後左遷せられけ寺の別當小
形くはあり今い終の小寺とあり

○醫王山薬師寺

下野國薬師寺村あり
幸き薬師如來 長五尺許

開基鑑真和尚 觀自筆の
畫あり

其外什室は弘法大師の筆に大般若經 三百九十六卷

又普賢像古筆唐畫なり

此寺院はくは觀音を所勅預訪ありしが薬田を以て勸ま
りし世極の時を以て今い少くは村を以てありたり毎堂とあり

解脫の空門に入れば釋徒もいひつゝ

此處より常陸の筑波山なる山嶺二つあり高山中に富士山に似たり
ありし九里なる有都とされしを江戸中との間中けしより外ふは
武蔵下総下野の國中に山形のみ平原の地あり小坂あり
山あり筑波山乃南なり山は北なり北の山にあり其麓を
傳りし水戸とけし其小なり下総國と武蔵の山あり
とにさなる常陸の下野と下野の山あり
此國の形はれりしに桃李の花甚多し桃の花を畿内
の桃より色濃く
なりし桃李を賞し南西國の桃李はれりしは
くさひにばありし桃李の色も
さはるに花も亦多し大梅も花ありしは
見くは寒國なるあり



○石橋より小金井まで五里半

小金井の道より半里東に千葉とら所首民村に千葉助が居り

○小金井より新田まで五十九町

新田より小山まで五里半

○小山より同々田まで五里半六町

小山の町長一町の南に古殿の跡あり小山判官の墓あり小山氏の居

城ありとらは同々田より八里半にあり町ありては地を下所常陸

武蔵の三ヶ所は分属しとら古殿の跡あり結城氏代々の居城あり今も

水産産を方八千石領ト結城氏安福寺とら一福刺ありとら

玄翁和志郡須野の報生に成行とら一町の製法也水晶の産地也

中して今も有り

小山より小の方の驛所之田畠ありとら左右とも小背遠なり南小

東西幾里とら幸成とらは林園もあり奥列境まで約のてはの産地

南園を下毛野や名は布一里三半也也

○同々田より北本まで五里二十五町

宇都宮城より同々田より北本まで五里二十五町

○北本より古河まで廿五町

は同々の列樹長

○古河より栗橋まで五里半

古河の町長一土井大炊頭産七方石成竹で城下の町乃其れ

端を通ふ城と道より見ると古河の町端より利根川のつらあり

は河より古河に城あり古河のつら名は先を古河あり許長乃

後とを考り
万葉 後々々々々の後を考らるる乃善事なり其れあり
後人なり
後古 後々々々々の後を考らるる乃善事なり其れあり 日

○ 粟橋より幸手まで貳里二町

粟橋小関吏所ありは同より右の方小利根川あり坂東第一の大
河なりそよもはあそび人坂東を即ち上野の奥沼田より流る
上野下野武蔵下総茨城を隔田川よりて海入

粟橋より幸手まで一里一町
糟登より江戸まで一里一町

○ 幸手より松戸まで一里半

○ 松戸より糟登まで一里半

○ 糟登より越谷まで貳里二町

は日之糟登より宿元は駅より子母の方小関宿より入所あり之世大和
守侯の居城あり五万余石ありは糟登のよりはさし不動院連
関東の山伏の司あり

○ 越谷より草加まで一里廿八町

岩槻より越谷より二里廿八町大呂丹後守侯の居城あり二万余石あり

○ 草加より千住まで貳里八町

草加の西北方に糟登まで一里二町の池ありとて街道より見ると

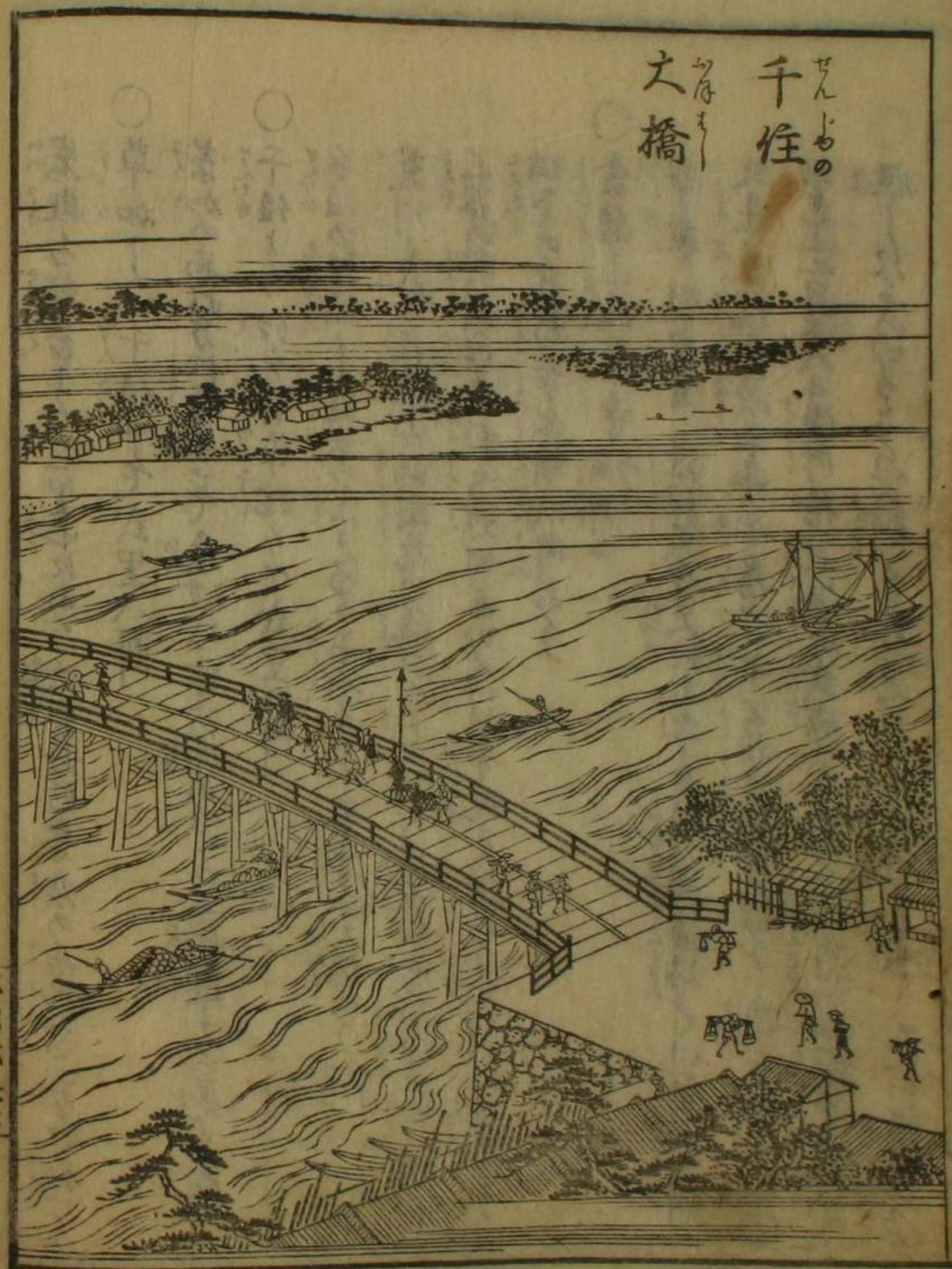
○ 千住より江戸日本橋まで貳里八町

千住の駅旅一遊女の宿見あり古くより宿中小大橋あり
荒川舟架尻末と兩國橋の流ありこれより江戸まで大呂丹後守侯
三谷の所瓜色と新橋町母の所日本橋よりあり荒川の舟架あり
江戸の所新橋町母の所日本橋よりあり荒川の舟架あり

○ 金龍山成草寺

幸尊親世音 孝徳天皇大化元年丹波沙門勝海始ては寺依り創

又朱雀院天慶五年安房守平公推再興をひて推古天皇二十
六年二月十八日漁師捨慈徳成武成より三之成村河小綱原より
桂しれまのつらね別とてとて子親善の善徳不思縁の心と



本為六州七

あしき川 藤原のりくむら 飯本草堂と清の安をたけつ今の二権現
こ種ももそあをさきとくを詔りてあひんきとひさくせう石の徳降三
成三社権現と云ふ又十社権現と今に藤原をりてき彦成清の辨賦天
の社ありこれの因本三辨天の其一なり延世粟本信社圃魔堂石像の笑
姿大足天と弘法大師の他神明の社五帝権現堂後橋隨身門と門の毎
年正月の十六日ありてふせう神傳門の歌等海堂の号と又山門の
傳小松弁一終一福壽神と尚所の地主の神ありと又明王院あり
姥が依枕の石ありとある辨天の廟ありの姥が娘成ありたり其外子院
二十箇寺あり

○ 直土山 飯草小 又侍乳とも書く山と小聖天寺あり山の下を

○ 清草川 宮寺あり 開田川ともいふ上を荒川と名づく千代川

こ種より清草見附をへく横山所他町大傳馬所幸所をこく

本巻六ノ世八

武藏野

室町小浦より日幸橋小至所

後飛 女らむと有る家のむらゆりゆはひよりききむらむらりり

日 びりやゆりとも林乃とそそたれいゆる風のまよゆらん

日 りまをききむらつ武蔵野小浦のまより川小月より

後右 武蔵野 白月れをるれありありきりるまにり歌とて中

日 むら一社ありまをたかく城あり今宵そまふふの徳乃月

日 幸ふふと中よりぬあり名のいり月ありぬ武蔵野原

日 其の目れり程も那れ冬雪ふる瓜里遠きむら野乃と

日 けふにをへりをそのむらゆりまふかある林の萩の月

日 子親一愛ゆふむらけり野成ありと色も色も色も

日 せり一野とありりまも萩の花をり夜をりてをりねと

日 雲も雲も色も色もむらむらけりやのむら色も色も色も

後後拾 後二位

後十 山道入道

玉景 法下 後拾

日 後拾



新拾 三城麻のよん丸葉よしゆねせ中輝ふゆらけやけの末
 日 谷川せぬのちをなそりけ枝をうらぐん武蔵野東
 新後拾 川末の森よすけし白飯のふもふあゆるむさしけ
 日 雅方よゆ常居のまきまきさへなうり武蔵野東
 日 ぬの根をうらけし白雲れおつむ武蔵野の東
 新後拾 武蔵野ゆりの色もこい佳ぬえおつむ武蔵野の東
 日 妻のよれ霞のまやまの夜はくこ草草まむしけれ
 新林 中河しけき葉れゆりもこいおつむさの東乃雪れまくれ
 新千 葉枕けし後夜のうらね日殺けらるるしけけ
 二本 むしけけし思の東林林を花けくたかるふなる非
 霞が関 大名おれありむし奥列樹なるむし
 日 別はゆき雲の表乃圓りわごとくふ月とせむ先やせむ
 本大納言
 西世
 後二位
 定子

本考六の四十一

新古 じほよふ名女のさむく東の表申開をませまの
 向丘 不要池の申西の方と
 新勅 武蔵野乃白の雲をまけれね松を尋ても夜とそよ
 後古 羽ふくたゆよまらうらむ白の雲よつりけさ
 玉糸 夕月むしひの思れすおままうたしひま枝の通る非
 二本 夕月ま白の雲の海を雲乃けそよらるるくおけ
 壱兼の舟 半遊よ
 千載 むしけけし壱兼の舟をあらむとけくさの池はさかり
 後成

木曾路名所圖會卷之六 文尾





跋
蘇翁此稿... (Vertical handwritten text in cursive style, starting with '蘇翁此稿...')

平安畫工

法橋西邨中和堂



本番六四二

文化二年乙丑三月

大阪書林

和泉屋源七
河内屋儀助
今津屋辰三郎
和泉屋久右衛門
塩屋喜助

小川多左衛門
善屋儀兵衛
升屋藤兵衛
菱屋三郎右衛門
越後屋清太郎
美濃屋小兵衛
西村吉兵衛

京都書林

樂
金
華
信
錄
了
竟
着
四